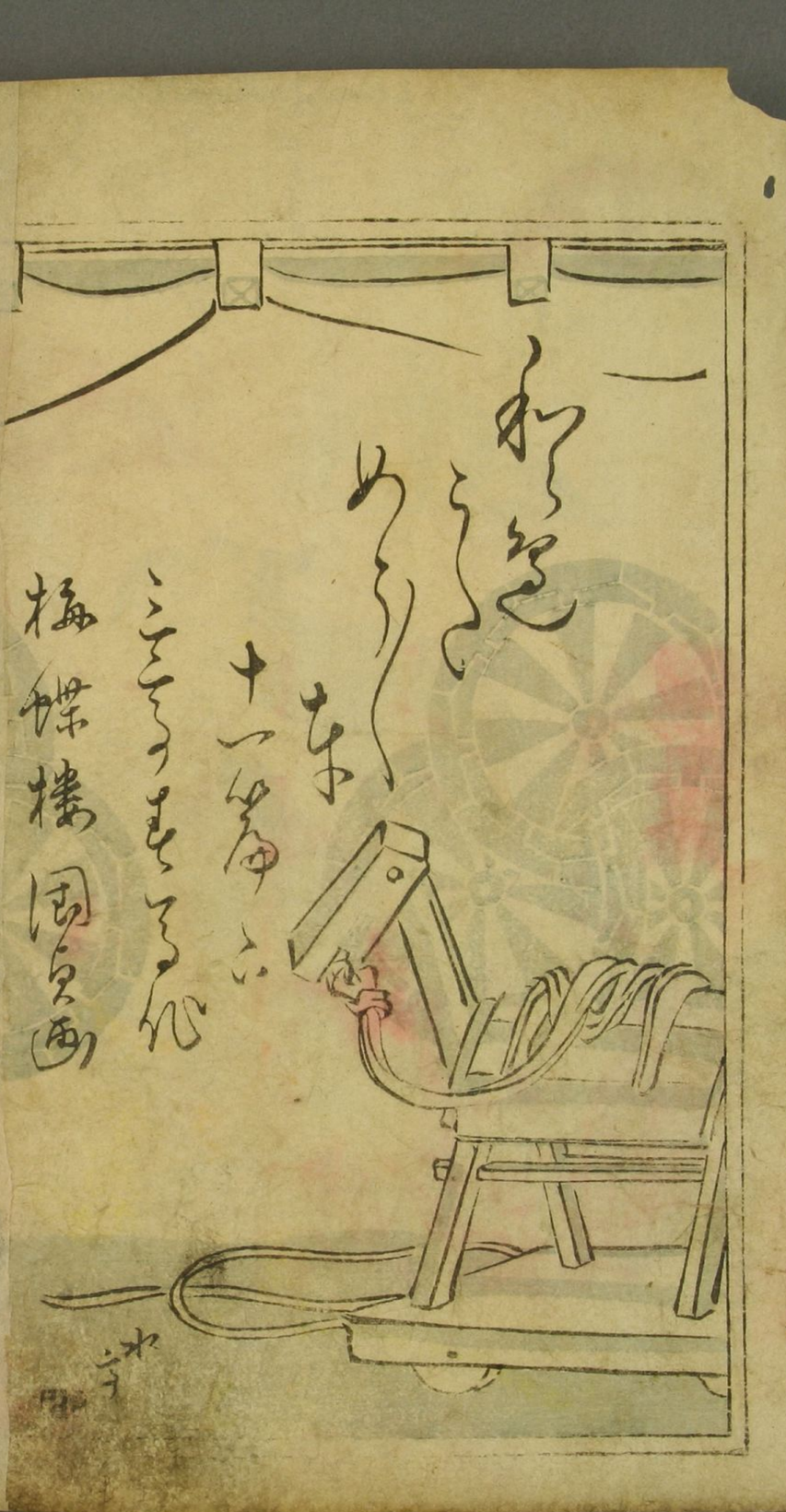
KODAK Color Control Patches © Eastman Kodak Company, 2003
LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

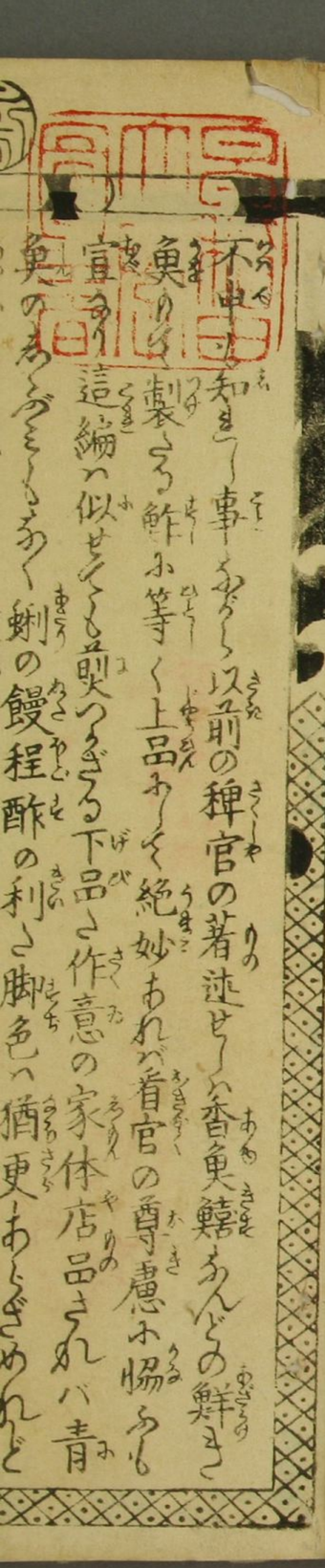
特別
~13
1181
6

十一編上

十一編下

特別
へ13
1181
6





ここそ夫こそ似
梅桜梅園之画

水之亭

十一ノ春之

紅英堂版

不申知事ながら以前の種官の著述せし香奠鱠なんどの鮮きも
奥の製る鮓ふ等く上品ふく絶妙あれど看官の尊慮ふ協ふ
這編の似せそこも則ち下品さ作意の家休店品されバ青
奥のまぐろふく剌の饅程酢の利さ脚色ふ猶更あらざめれど
製本の善美のぐく眼掠しつく實妙案さうふ視せうふ是紅英
堂の嚢功者ふり

安政七庚申歳端月

三亭春馬記

麻衣

魔度六

曲豆剛急

妙々車十二

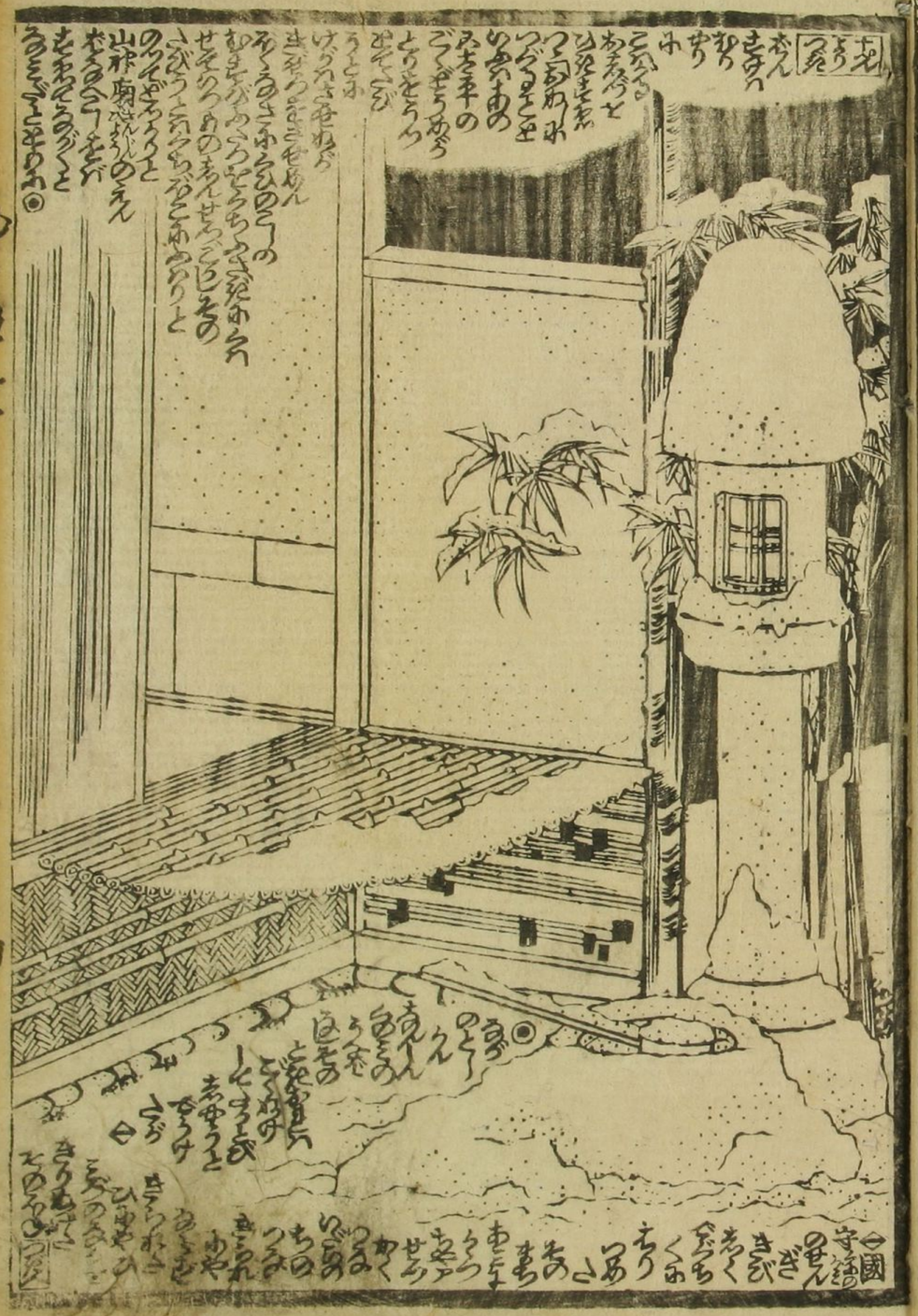
惡漢膚助

曲斗二図の内

妙々車十二

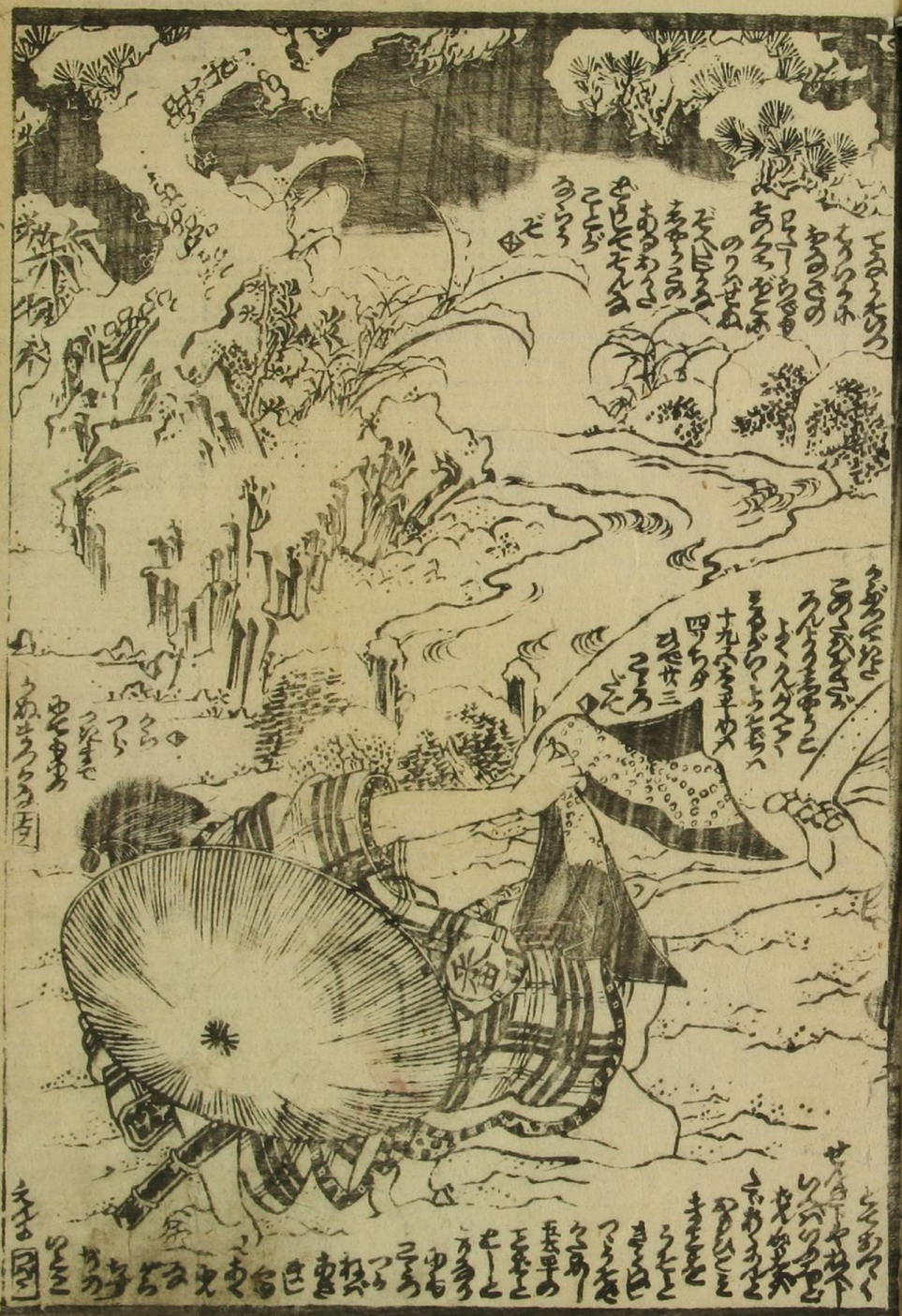
慶九郎

惡漢變七



五
吐

番



番

五

五

三亭春馬作

梅蝶樓國貞画

御免疝積湯 せんきのくすり

御用藥所 信州上田 東山堂製賣

せんきの妙薬

一包 四十八銅
一包 廿四銅

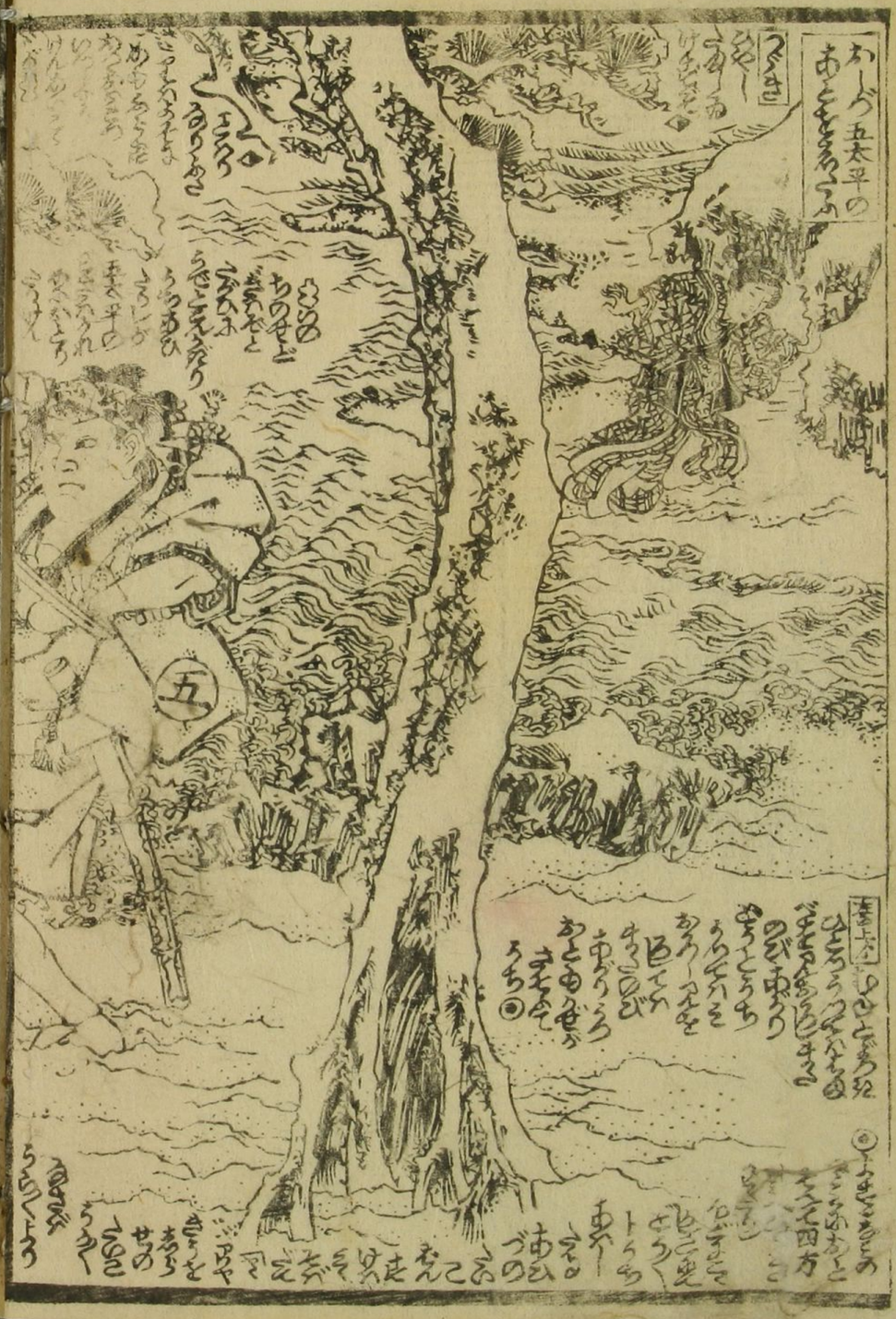
本家 寶母散

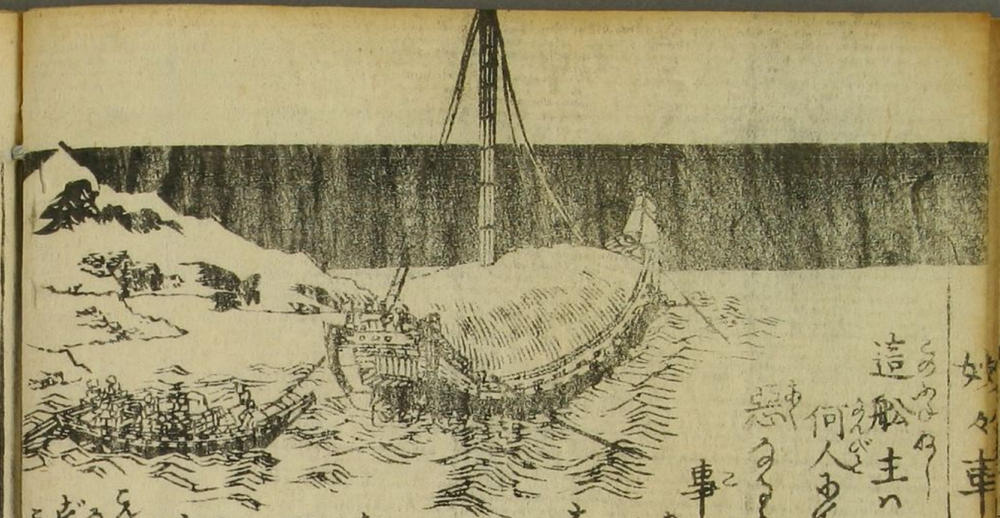
濡衣霧雨鰹友紙 初ニ編る追々出板 柳亭梅彦作 梅蝶樓國貞画

伊達關戯場取組 初ニ篇ニ続キ追々出板 河原崎権十郎作 梅蝶樓國貞画

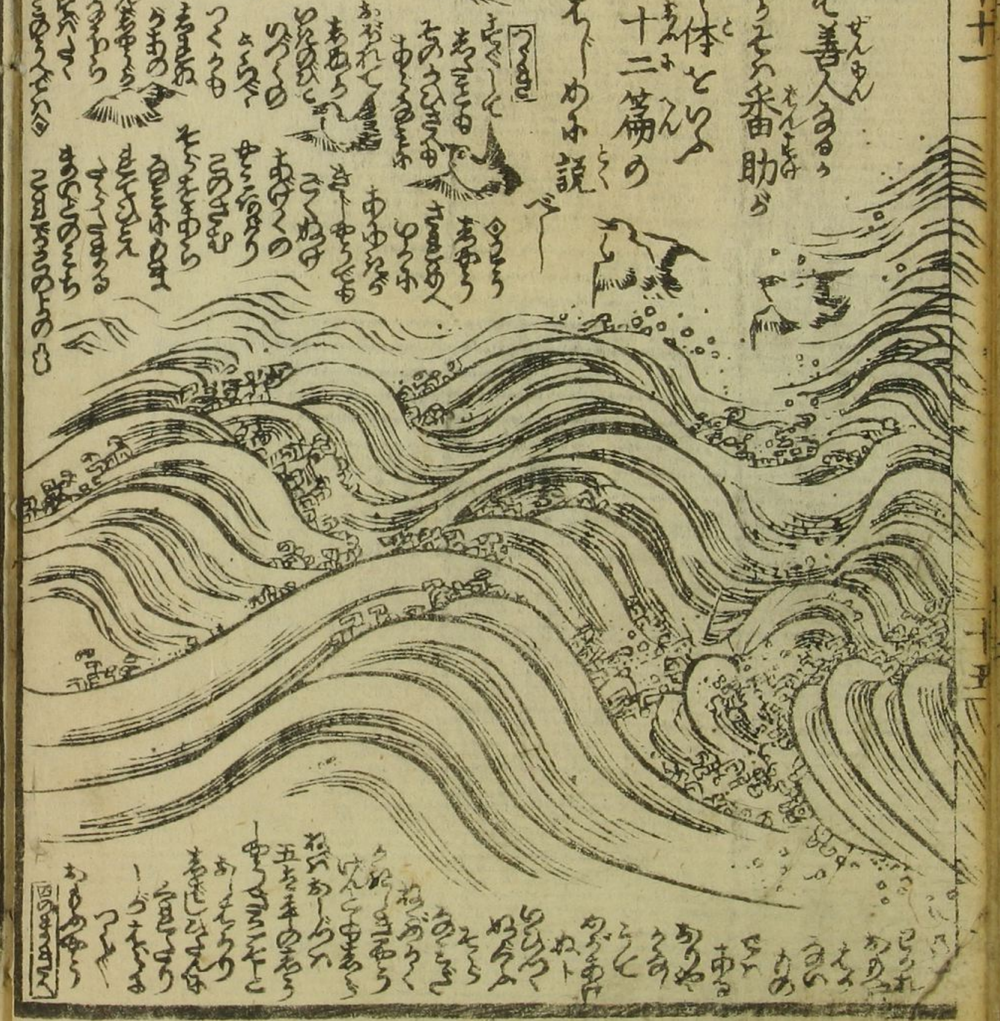
胡蝶巻 一名馬切 初ニ編ニ続キ追々出板 柳亭種彦作 梅蝶樓國貞画

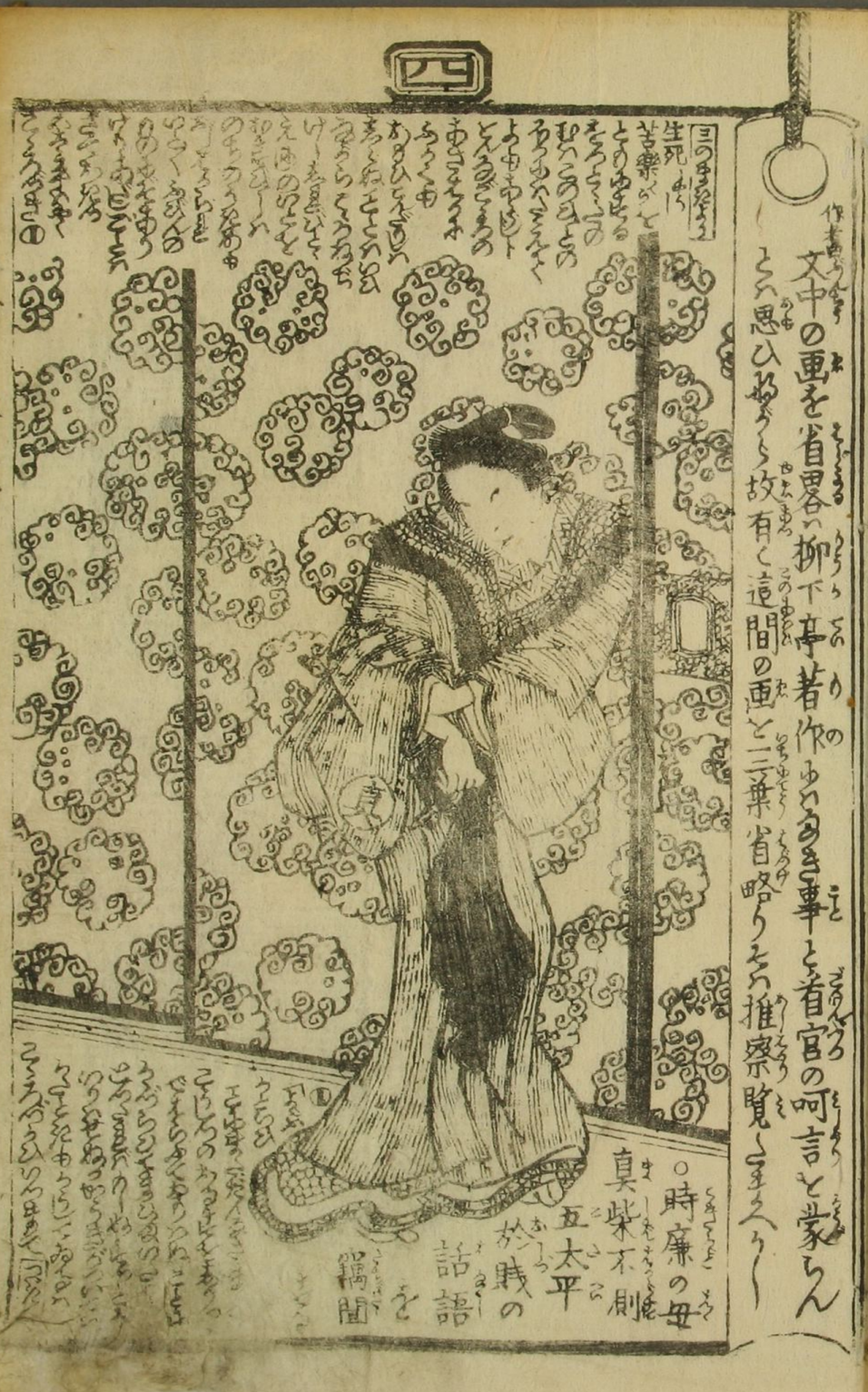
番





這船主の何人ぞ善人うるう思うそう番助が事体をひん十二篇のちゞめ本説





作者曰く文中の画を省畧の抑下事と着官の呵言と蒙らん
こゝ思ひ給ふら故有て這間の画と二葉省略りそう推察覧まえう

○時庸の母 真柴木刷 五太平 於賤の話語を 鶴聞

五太平の遺書

お時の遺書

五

真

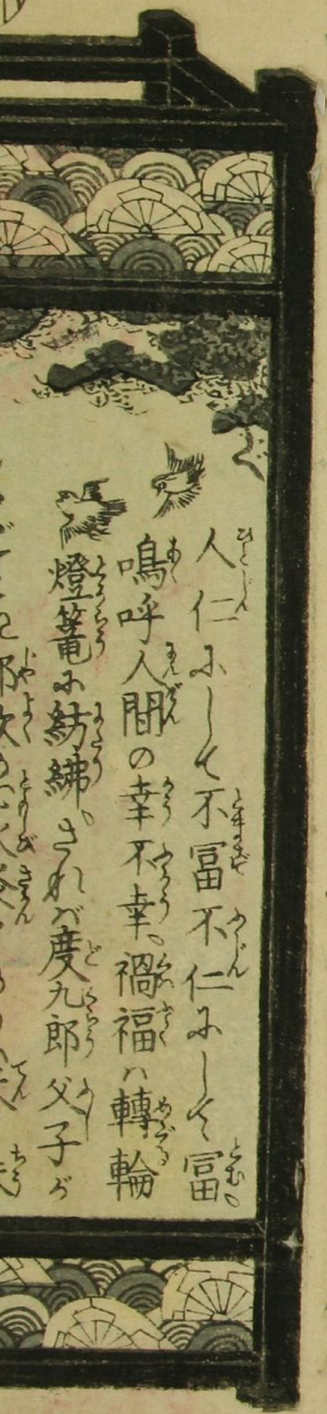
時

三亭春馬編次

外題画之部

同作 同画

化粧くらべ 答王章


人仁ふしぐ不富不仁ふしぐ富
鳴呼人間の幸不幸。禍福ハ轉輪
燈籠竜み紡紳。さればぐ度九郎父子ぐ

人仁ふしん不富不仁ふしん富
鳴呼人間の幸不幸。禍福ハ轉輪
燈籠み紡緋。さればや度九郎父子ゞ
ごとき邪欲の心火炎々たる天も誅
まり罪と事あるべし。然いたれども天極
ひとしく盡。終ハ身命の灯も
消ゆるん。その遂ける後巻の話柄。
這編も中絶せざるべう。追々趣向
の油と嗣ぎよ〳〵愚案をめぐらすべし〳〵

萬進二初春　三亭春馬記

和ろ
こと
めろ

十二篇之

ことぶき春の初

杉楪横国名画

紅英堂梓

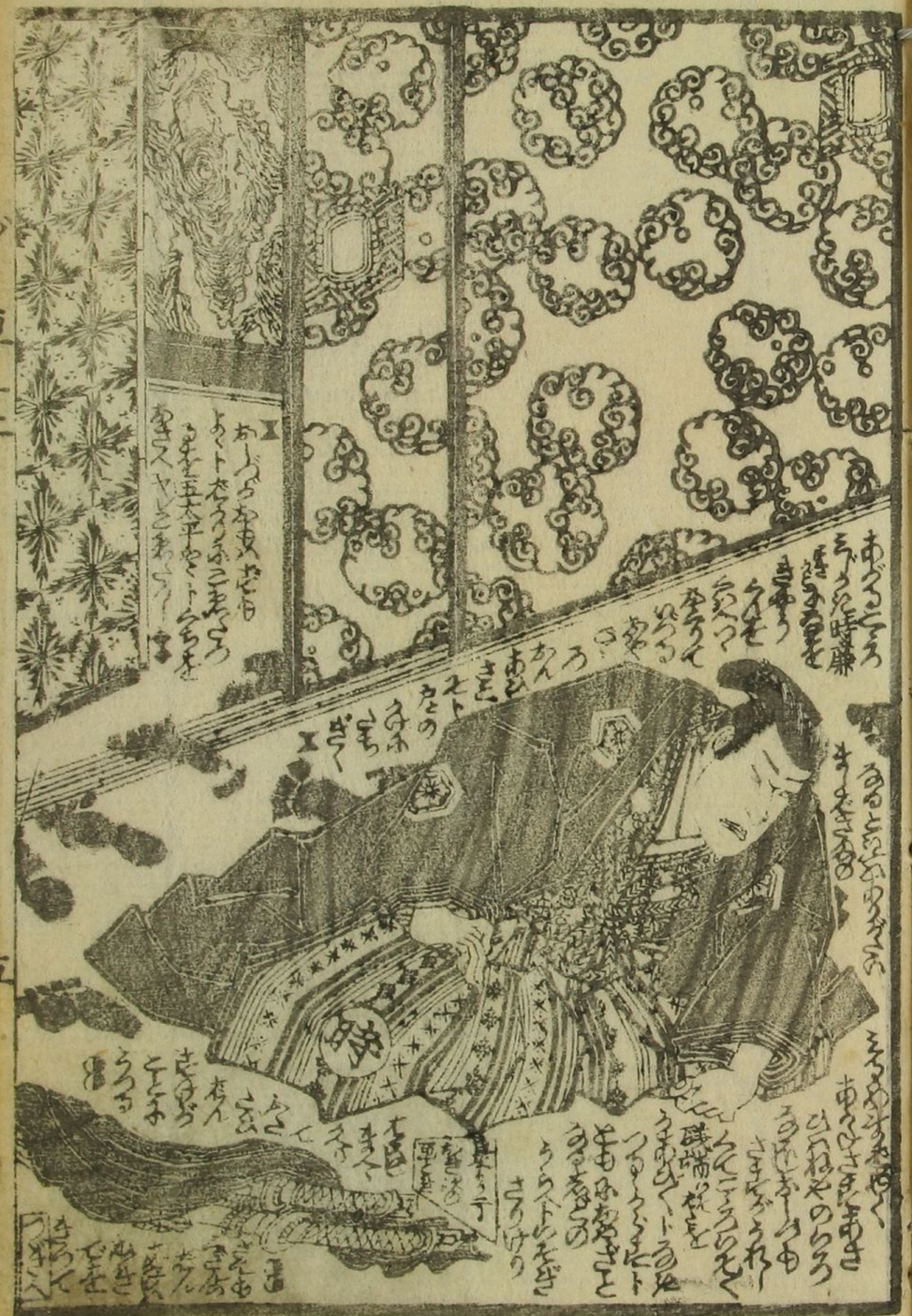
越後國
廣瀬谷の産
霜七の兄
大太郎

豊国画

室の津遊君玉菊

豊国画

五大平
始終を
竊聞



文覚
おのが不二言譯と言ふ
時命なれば無駄かも
普通との思ひなれども
暴く寿島へと着のみ

賊船讃岐の海上をそう。

春馬作　國貞画

御免疝積湯
御吊薬所
せんきの妙薬
信州上田 東山堂製
一包 四十銅
一包 廿四銅

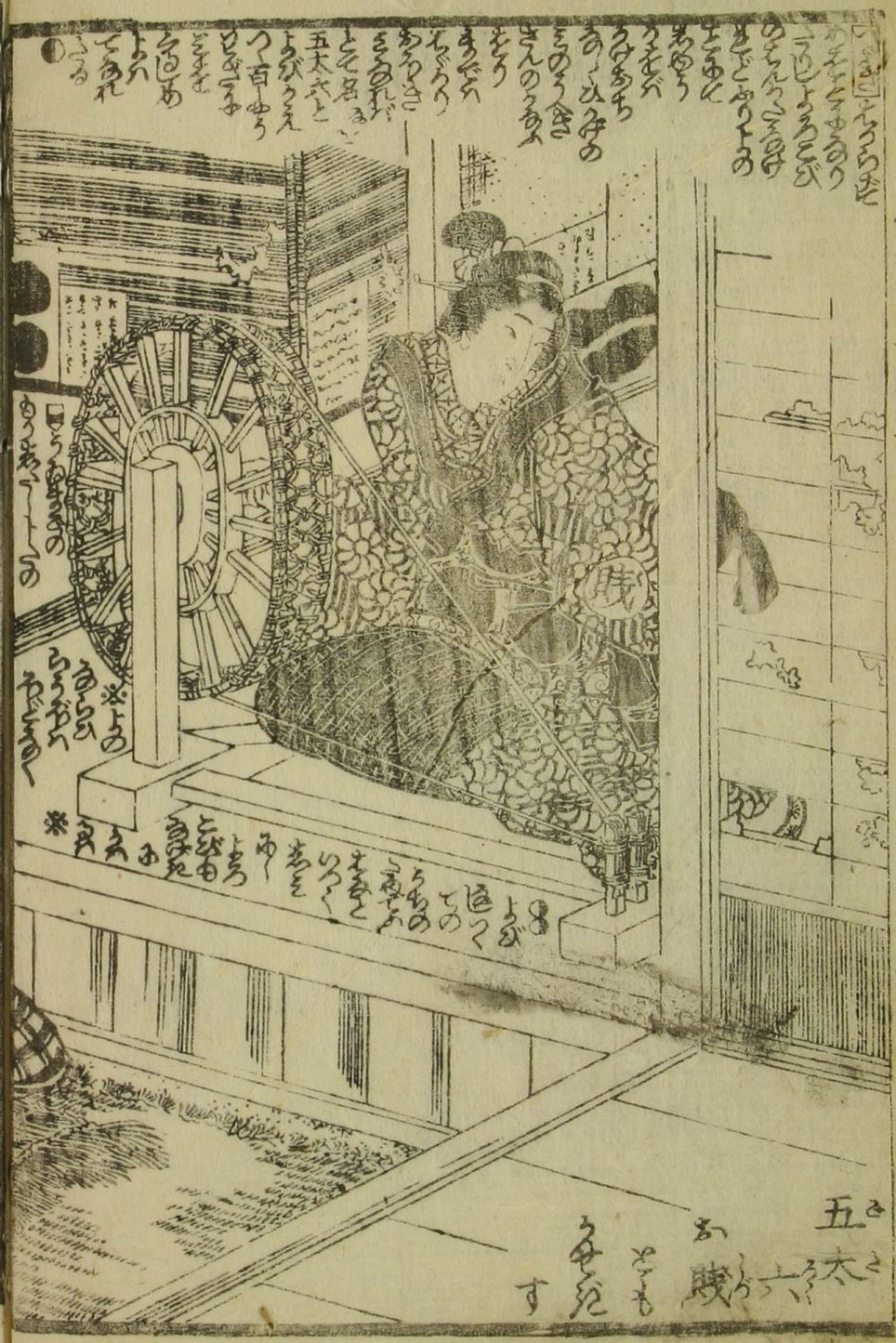
座家寶母散
私方実母さんのらいの中もう一ぱい二ぱい三ぱいもまいりましたら
こんどこそ三本貰ひ弘まりの処店のみなさまがたへ引ずりつれ
由橋南傳馬町二丁目東ヘ入
千葉堂蓁輔製

濡衣雨髪紙
初篇ヲ追々出板
柳亭梅彦作
梅蝶樓國貞画

伊達關戯場取組
初篇ヨリ三篇マデ
河原崎権十郎作
梅蝶樓國貞画

ぶやのもちもの
胡蝶巻 一名馬切
初篇ヲ追々出板
柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

五太平



五太六酔て お賤を打そこそこ

賤

坊

時

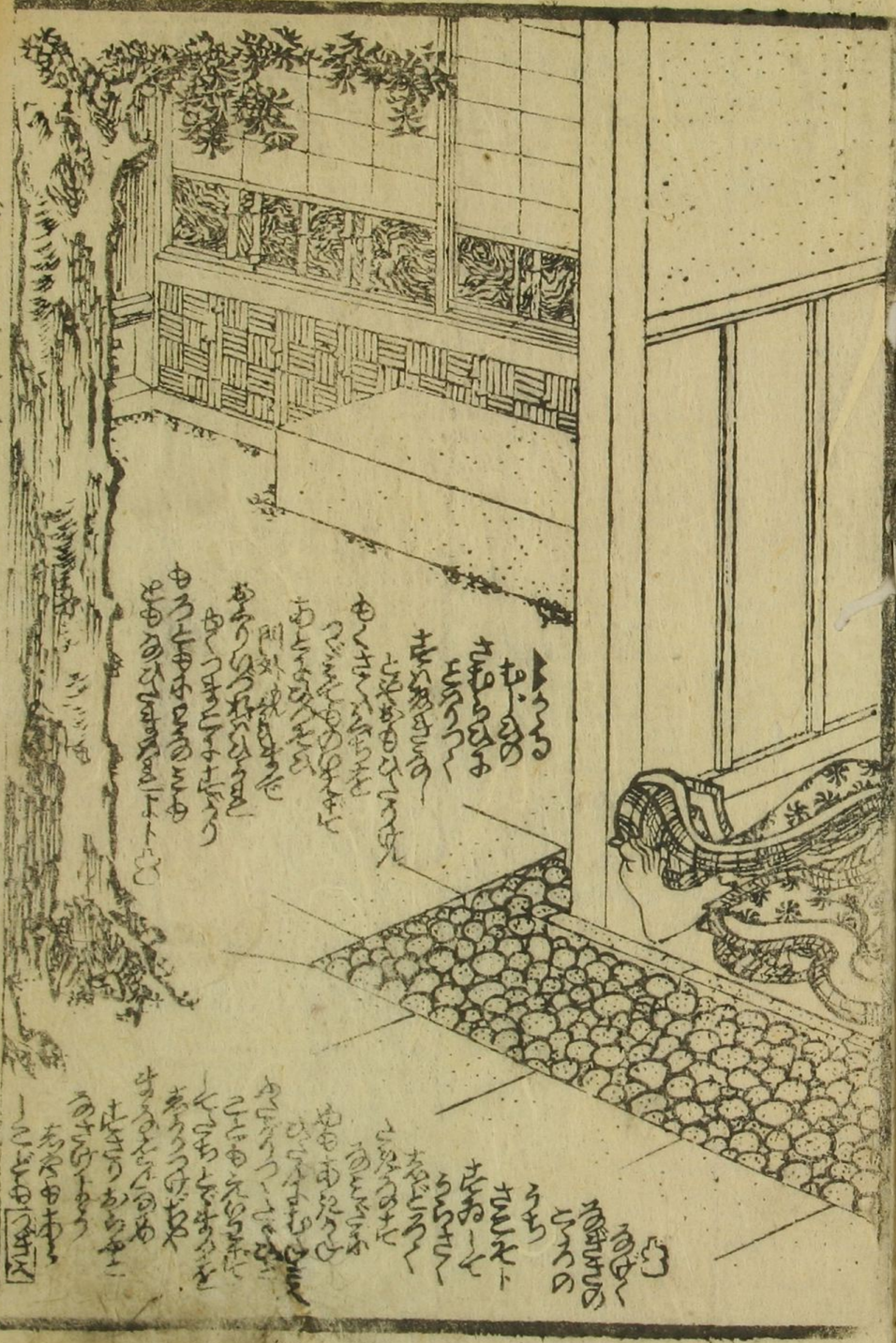
時

時
刈

志
浦

前
時
後漢書
五

五



弘法大師 舊跡新話 **筆海四國聞書** 柳亭種彦作 梅蘂樓國貞画

推現堂 堤後讐 **假名情談戀畦倉** 瀬川如皐作 梅蘂樓國貞画

倆時次郎 倆浦里 **明鴉墨画西倆襠** 三亭春馬合作 柳亭種彦作 梅蘂樓國貞画

童謡妙々車 十五編ノ内 十七編追出板 種彦作 國貞画

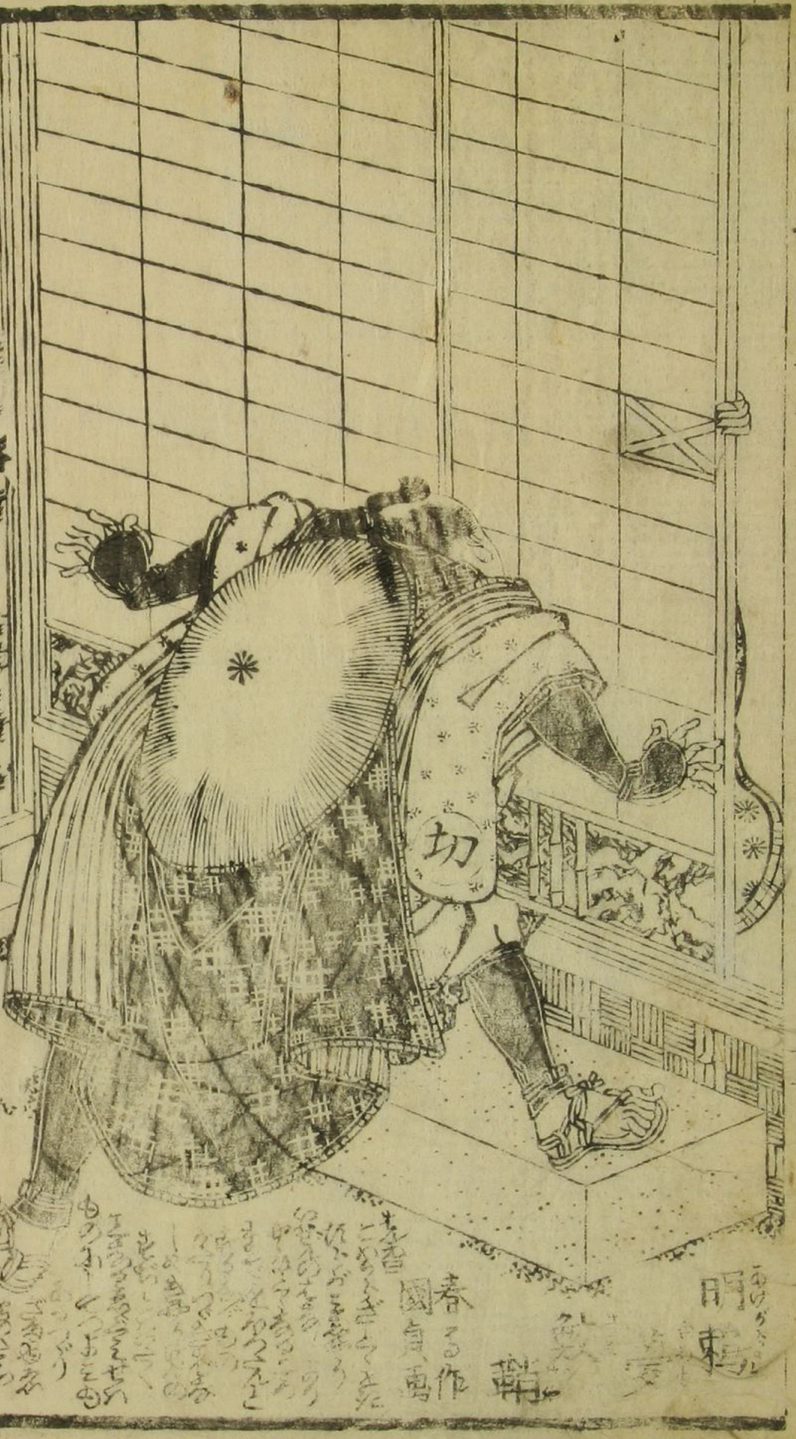
薄俤幻日記 十編 十一編 十二編 春水作 國貞画

花封答玉章 七編 八編 種彦作 國貞画

犬傳犬の双紙 四五編 四六編 柳亭錄 國綱画

地本双紙問屋

南傳馬町壹丁目

蔦屋吉藏板

三亭春馬作 蝶樓國貞画